

「一家和楽」

岡本 妙子

「お母さん、母の日おめでとう！」生まれて初めてカーネーションをもらった、五月の第二日曜日。パパと二人で朝からなんだかソワソワしていた六歳の娘。そして私よりもはるかに若くて美しい、しわのない似顔絵。想像もしていなかった二人からのサプライズに、泣いて喜んだ。最後には二人で「母」という名曲まで歌ってくれた。私は顔をボロボロにしながら、娘を抱きしめ、夫に感謝をした。そして主人を産んでくれた母、私を産んでくれた母にも、この歌を届けたいと思った。毎年GWに帰省し、カーネーションをプレゼントする事で“ありがとう”を伝えてきた。でも今年にはホームステイのGW。心ばかりの品を送るには送ったが、二人の母が待っているのは、そんな心ばかりではなく彼女の声だ。そう、かわいいかわいい孫の声。私達家族は作戦をたてて電話をかけた。母の声。懐しい声。娘と電話を代わると、その声は1オクターブ上がる。そんな声も出せるのか…と思う。真心こめた「母」の合唱は、父もばあちゃんも、すべての人を巻きこんで笑顔と涙にしていた。我ながら、一家和楽のいい家族を築きつつあると自負している。それはきっと、主人の家族が主人を温かく包んでくれたから。両親が私に愛情を注いでくれたから。そして思う。家族っていいなって。離れていても、会えなくなっても、家族だなんて。ありがとう、私の家族。